

平成 26 年度 第 1 回  
岩見沢市子ども・子育て会議 資料

- (1)一般向け及び事業者向けアンケート調査について……………1
- (2)平成 26 年度の会議日程について……………別紙
- (3)ニーズ調査に基づく量の見込みと現在の提供量について……2
- (4)幼児期からの遊びを通じた知力と体力の向上について…………8
- (5)子育てストレスの解消について……………10

平成 26 年 4 月 21 日  
岩見沢市子ども・子育て会議

## (1)一般向け及び事業者向けアンケート調査について

### ① 一般市民向けアンケート調査

対 象	一般市民
調査事項	性別、年齢、子育ての経験、市が重点的に取り組む必要が高い施策、子育て支援に関する希望や意見
周知方法	広報いわみざわ3月号（折り込み、38,000部） 市教委ホームページ
調査期間	平成26年3月1日～14日
回収方法	所定の用紙による郵送、FAX及び電子メール
回収結果	427件（郵送：359件、FAX：68件） 30～40代の子育て中の女性、60代を中心とする高齢者層が多い。 結果（単純集計）は別紙のとおり

### ② 事業者向けアンケート調査

対 象	育児困難家庭、児童虐待リスクの高い家族等との関わりがある幼稚園や保育所などの事業所、計51か所
調査事項	事業者の種別、スタッフの職種と人員、養育環境のリスクが高い家庭と接する機会とケース、市や地域の取り組みについて
周知方法	郵送
調査期間	平成26年3月1日～14日
回収方法	所定の用紙による郵送
回収結果	43件（郵送：51件）、回収率84% 養育環境のリスクが高い家庭と接すること よくある 4件 幼稚園、保育園、保健センター 時々ある 11件 支援センター、保育園、幼稚園、地域親子ひろば 結果（単純集計）は別紙のとおり

## (2)平成26年度の会議日程について

別紙のとおり

### (3) ニーズ調査に基づく量の見込みと現在の提供量について

平成 25 年 12 月に実施したニーズ調査から、保育等の各種サービスについて、量の見込みを算出しました。

平成 27 年度から導入される予定の、保育の必要性の認定区分は以下のとおりです。

#### 保育の必要性の認定区分

- 1号認定 ～ 満3歳以上で保育の必要性なし ⇒ 幼稚園利用
- 2号認定 ～ 満3歳以上で保育の必要性あり ⇒ 保育所利用又は幼稚園
- 3号認定 ～ 満3歳未満で保育の必要性あり ⇒ 保育所利用

2号認定(3歳以上で保育の必要性あり)の場合でも、保護者が幼稚園を希望すれば幼稚園を利用することができます。ニーズ調査では、それぞれの子どもがどの認定区分に属するかも含めて分析しています。

### ① 保育定員と保育の量の見込みについて

保育を希望すると推定される児童数の推移は次のとおりです。 (表1)

年 度		H25参考	H27	H28	H29	H30	H31
ニーズ量	【0歳家庭】3号認定	57	283	275	267	259	250
	【1・2歳家庭】3号認定	467	480	486	474	460	447
	【3歳～就学前家庭】2号認定	815	794	770	751	726	726
	合計	1,339	1,557	1,531	1,492	1,445	1,423
入所率(%)		89.6	104.1	102.4	99.8	96.7	95.2
定員	認可保育所	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020
	認可外保育所	200	200	200	200	200	200
	へき地保育所	275	275	275	275	275	275
	合計	1,495	1,495	1,495	1,495	1,495	1,495

平成 25 年度の保育所利用児童数よりも、平成 27 年度のニーズ量が増加しているのは、0歳児保育が大きく伸びていることによるものです。また、入所率についても、受け入れ定員に余裕を持たせているへき地保育所が全体の入所率を下げています。

0歳児の保育ニーズは平成25年4月の入所児童数が57名であったのに対し、平成27年の見込みは283名と5倍近い値となりましたが、実際には育児休業を取得するケースも想定されることから、現状の同程度の60人と仮定し、受け入れ枠に余裕のあるへき地保育所の定員を現在の入所数と同程度とするなど、現状に近い形で分析した結果は次のとおりです。

年 度		H25参考	H27	H28	H29	H30	H31
ニーズ量	【0歳家庭】3号認定	57	60	60	60	60	60
	【1・2歳家庭】3号認定	467	480	486	474	460	447
	【3歳～就学前家庭】2号認定	815	794	770	751	726	726
	合計	1,339	1,334	1,316	1,285	1,246	1,233
入所率(%)		100.7	100.3	98.9	96.6	93.7	92.7
定員	認可保育所	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020	1,020
	認可外保育所	200	200	200	200	200	200
	へき地保育所	110	110	110	110	110	110
	合計	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330	1,330

期間中、徐々に入所率が下がり、平成31年には平成25年より約100名減少すると予想されています。

## ②幼稚園定員と幼稚園の量の見込みについて

幼稚園を希望すると推定される児童数の推移は次のとおりです。 (表3)

年 度		H25	H27	H28	H29	H30	H31
ニーズ量	【3歳～就学前家庭】1号認定	840	677	657	641	619	619
	【3歳～就学前家庭】2号認定	-	240	233	228	220	220
	合計	840	917	890	869	839	839
入園率(%)		78.9	86.1	83.6	81.6	78.8	78.8
定員	市内幼稚園	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065	1,065

幼稚園を希望する児童数は現状よりも拡大するものの、平成30年ごろには現在と同水準になるものと予想されています。

現在、岩見沢市において認定こども園への移行の動きはありませんが、認定こども園が増えた場合、入所率・入園率の変動も予想されます。また、市外にある幼稚園等の利用によっても変動することが考えられます。

### ③放課後児童クラブ定員と放課後児童クラブの量の見込みについて

小学校に入ると、昼間保護者が働いている家庭の児童は、放課後児童クラブを利用することになります。現在は、小学校 3 年生までが対象ですが、児童福祉法の改正により平成 27 年度以降、小学校 6 年生までが利用の対象となる予定です。

放課後児童クラブの利用を希望すると推定される児童数の推移は次のとおりです。

登録児童数推移

(表 4)

施設名		平成25実績			ニーズ量(人)														
		利用定員 (人)	登録児童数 (人)	登録児童割合 (%)	H27			H28			H29			H30			H31		
					低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計
公営	日の出	70	54	6.7	54	27	81	52	26	79	52	26	78	51	26	77	50	25	75
	鉄北	70	83	10.3	84	42	125	80	41	121	79	40	119	79	40	119	77	38	115
	春日	70	26	3.2	26	13	39	25	13	38	25	13	37	25	12	37	24	12	36
	美園	70	83	10.3	84	42	125	80	41	121	79	40	119	79	40	119	77	38	115
	志文	70	49	6.1	49	25	74	47	24	72	47	24	71	47	23	70	45	23	68
	幌向	70	49	6.1	49	25	74	47	24	72	47	24	71	47	23	70	45	23	68
	利根別	70	41	5.1	41	21	62	40	20	60	39	20	59	39	20	59	38	19	57
	東・栄	70	51	6.3	51	26	77	49	25	74	49	25	73	49	24	73	47	24	71
	稲穂	70	51	6.3	51	26	77	49	25	74	49	25	73	49	24	73	47	24	71
	上幌向	70	27	3.4	27	14	41	26	13	39	26	13	39	26	13	39	25	12	37
	中央	70	42	5.2	42	21	63	41	21	61	40	20	60	40	20	60	39	19	58
	北真	70	26	3.2	26	13	39	25	13	38	25	13	37	25	12	37	24	12	36
	美園小	20	15	1.9	15	8	23	15	7	22	14	7	22	14	7	21	14	7	21
	来夢	70	77	9.6	77	39	116	75	38	112	74	37	111	73	37	110	71	36	107
	北村のびのび	70	60	7.5	60	30	90	58	29	88	57	29	86	57	29	86	56	28	83
民営	スキップ	64	53	6.6	53	27	80	51	26	77	51	26	76	50	25	76	49	24	74
	あおぞら	18	18	2.2	18	9	27	17	9	26	17	9	26	17	9	26	17	8	25
合計		1,082	805	100	810	403	1,213	780	395	1,175	769	390	1,159	767	385	1,152	746	372	1,118

一日あたりの実利用数推移

(表 5)

施設名		平成25実績			ニーズ量(人) ※受入人数を35人とする														
		登録児童数 (人) a	留守家庭児童/日 (人) b	実利用割合 (%) b/a	H27			H28			H29			H30			H31		
					低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計	低学年	高学年	合計
公営	日の出	54	26	49.0	27	13	40	26	13	39	25	13	38	25	13	38	25	12	37
	鉄北	83	33	40.1	34	17	50	32	16	49	32	16	48	32	16	48	31	15	46
	春日	26	14	52.8	14	7	21	13	7	20	13	7	20	13	7	20	13	6	19
	美園	83	41	49.6	41	21	62	40	20	60	39	20	59	39	20	59	38	19	57
	志文	49	23	47.8	24	12	35	23	11	34	22	11	34	22	11	34	22	11	33
	幌向	49	26	52.4	26	13	39	25	13	38	25	12	37	24	12	37	24	12	36
	利根別	41	19	47.4	20	10	29	19	10	28	19	9	28	19	9	28	18	9	27
	東・栄	51	21	41.5	21	11	32	21	10	31	20	10	31	20	10	30	20	10	29
	稲穂	51	27	53.6	28	14	41	26	13	40	26	13	39	26	13	39	25	13	38
	上幌向	27	12	46.1	13	6	19	12	6	18	12	6	18	12	6	18	12	6	17
	中央	42	23	54.2	23	11	34	22	11	33	22	11	33	22	11	33	21	11	32
	北真	26	12	46.6	12	6	18	12	6	18	12	6	17	12	6	17	11	6	17
	美園小	15	10	64.1	10	5	14	9	5	14	9	5	14	9	5	14	9	4	13
	来夢	77	40	51.5	40	20	60	38	19	58	38	19	57	38	19	57	37	18	55
北村のびのび	60	23	37.8	23	11	34	22	11	33	22	11	33	22	11	32	21	10	32	
民営	スキップ	53	33	62.8	33	17	50	32	16	49	32	16	48	32	16	48	31	15	46
	あおぞら	18	10	58.1	11	5	16	10	5	15	10	5	15	10	5	15	10	5	15
合計		805	395	49.0	397	198	595	383	194	576	377	191	568	376	189	565	366	182	548

放課後児童クラブの量の見込みを、低学年(1～3年生)と高学年(4～6年生)にわけて推計したところ、高学年で放課後児童クラブへの登録を希望する児童は低学年の約半分という結果になりました。

放課後児童クラブは、現在、児童館を主な実施場所としており、施設の利用定員である70人を上限としていますが、利用実態から、子どもたちにとって快適な環境といえる受入人数は35人程度と考えられます。その場合、半数以上の児童館では高学年の受入れが難しいと思われます。

また、ニーズ調査の中で、小学生の間 21-3「(受入学年を拡大した場合に)どのような内容であれば良いと思うか」に対しては、「スポーツ活動または文化・音楽等の創作活動」が39.6%、「学習活動」が26.4%となっています。高学年の活動として、スポーツ、創作、学習等を導入した場合、遊びを中心に自由に過ごす低学年と同じ場所を共有できるのかという点についても検討しなければなりません。

#### ④多様な保育サービス(認可外、病児・病後児)について

①の保育定員と保育の量の見込みで見たように、認可外保育所の入所定員200人の枠も、保育のニーズに応えるために必要です。

現在、国子ども・子育て会議では、利用定員20人以下の保育園で一定の基準を満たすものを「地域型保育」として認定し、認可保育所のように、施設型給付の対象とする検討を進めています。これが制度化されれば、利用定員の少ない認可外保育所の運営体制の強化につながることを期待されます。

次に、病児・病後児保育のニーズを見てみます。

(表6)

年度	H27	H28	H29	H30	H31
年間利用ニーズ	4,531	4,461	4,346	4,209	4,145
1日当たりニーズ量	15.6	15.4	15.0	14.5	14.3

開設日数を290日と仮定した場合のニーズは1日約15人であり、次世代育成支援後期行動計画の目標値1日6名を大きく上回っています。病児・病後児保育については、27年度実施を目指して準備を進めていますが、受け入れ人数については、実際の利用状況をみながら、受け入れ枠の拡大について検討することになります。

#### (4) 幼児期からの遊びを通じた知力と体力の向上について

子どもに対する支援として課題にあげている、このテーマについては、自由意見等の中から、保護者のニーズを捉えることにします。就学前児童の保護者の意見としては、あそび場の環境、あそびに関わる人に関する要望などがあげられます。

就学前児童 問 36 子育て支援策の満足度

○季節や天候に左右されずにのびのび遊べる環境整備 34件/430件

- (例)・雨天に遊べる場所が少ない。  
・冬に体を動かして遊べる場所がない。

就学前児童 問 37 子育ての環境や支援に関する自由意見

○人を介して遊べる環境の整備

- (例)・教育大の学生の力を借りて、子ども達が運動、音楽、芸術などに触れる機会をつくってほしい。  
・であえーるに管理の方を常駐させてほしい。トラブルや怪我が多い。

また、小学生の保護者の悩みとして、友達づきあいや、子どもとの時間をとれないことなどがあげられています。自由意見として、出かけやすく楽しめる場所を望む声が多く、小学生にとっても、のびのびと過ごせるあそびの環境やあそびに関わる人が望まれていると考えられます。

小学生 問 26 子育てに関する日頃の悩み、気になること (N=845) 別紙

○教育、友だちづきあい、しつけ、子どもと過ごす時間が大事

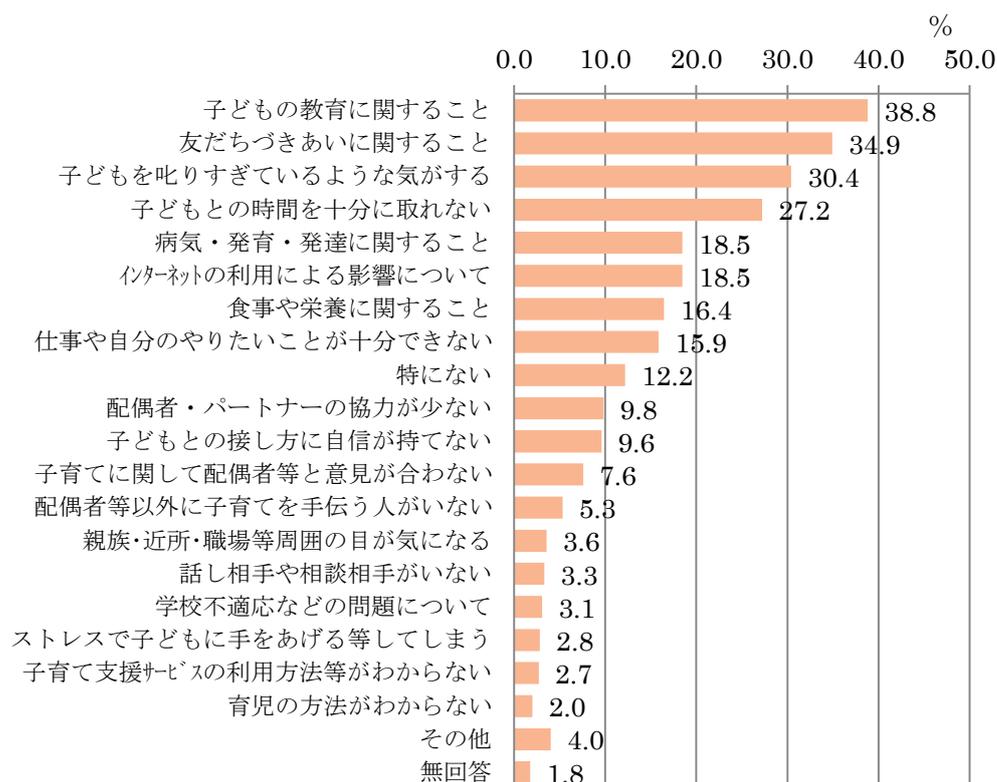
- (例)・友だちづきあいに関すること 34.9%  
・子どもとの時間を十分にとれない 27.2%  
・病気・発達・発育に関すること 18.5%  
・インターネットの利用による影響 18.5%

小学生 問 35 子育て支援施策に関する自由意見 (N=845) 別紙

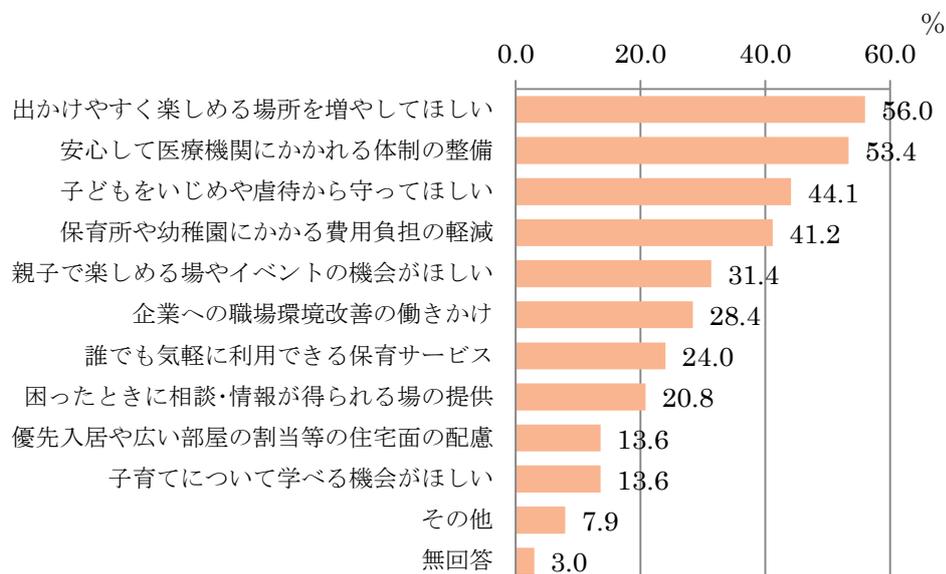
○出かけやすく楽しめる場所と安心できる友だちづきあい

- (例)・出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい 56.0%  
・子どもをいじめや虐待から守ってほしい 44.1%  
・親子で楽しめる場やイベントの機会がほしい 31.4%

小学生 問 26 子育てに関する日頃の悩み、気になること (N=845)



小学生 問 33 市に期待する子育て支援 (N=845)



## (5)子育てストレスの解消について

子育て支援センターや親子ひろばを中心に、様々なサービスが提供されていますが、その情報がうまく届いていないという意見もありました。

子育て中の保護者の方は、母親同士など人とのつながりや、困った時に頼れるところを求めており、そのことが十分にならえられないこともストレスの一因と考えられます。

就学前児童 問 36 子育て支援策の満足度

就学前児童 問 37 子育ての環境や支援に関する自由意見

小学生 問 35 子育て支援施策に関する自由意見 (N=845)

### ○子育て情報の提供

- (例)・子育て支援策について詳しくまとめたパンフレットを配布 (2歳児)。
- ・転入時に何の案内もなく支援センターの場所すらわからない (2歳児)。

### ○利用条件をつけずに交流できる場所が大事

- (例)・「ばぶばぶ」「とことこ」「ひなっ子」など気軽に参加でき、母親同士知り合う場所になって良い。
- ・「ばぶばぶ」「とことこ」は、第2子でも利用できるように。

### ○困ったときに頼れるシステムが大事

- (例)・産後の支援や母親の病気時に頼れるサービスを望む (2歳児)。
- ・近所で保育をしてくれる人の紹介システムがあると良い (2歳児)。
- ・働く母親のためのサポートをもっと充実させてほしい (5歳児)。
- ・ファミリーサポートがほしい (3年生)。